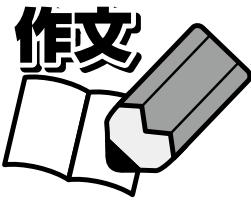


全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞



かぞくごはん

高崎市立北部小学校 1年 静 野 湊 斗

あさおきると、つくえにおとうとのいすがじゅんびされていました。いつもは、ぼくと、おとうさんとおかあさんのさんにんでたべるのにへんだなとおもっていると、おかあさんがちいさなおさらをもってきました。

「なにこれ。」

おさらのなかに、しろくてとろとろしたものがはいっていてぼくはびっくりしました。

「これはごはんをつぶしているんだよ。きょうからあかちゃんもごはんをたべるよ。」

と、おかあさんがいいました。おかあさんが、ごはんをおとうとにたべさせると、おとうとはびっくりしたかおをしましたが、ごくりとのみこんでくちをすっていました。

「ぼくもたべさせたい。」

すふーんですくってどきどきしながらたべさせると、ちいさなくちでいっしょにめいもぐもぐとたべているのがかわいくって、なんだかうれしかったです。

そのひから、かぞくみんなでごはんをたべるようになりました。おとうとのごはんも、とろとろからつぶつぶになってやわらかいごはんになって、いまはぼくとおなじごはんをたべるようになりました。くちいっぱいに、ごはんをいれてがんばってたべているかわいいおとうと。おいしいねっていいながらもりもりたべるおとうさん。おいしいごはんをつくってくれてみんなにあじはだいじょうぶかとききながらたべるおかあさん。よにんでたべるごはんは、さんにんでたべるときよりもたのしくて、とてもにぎやかになりました。ぼくは、たべかたのせんぱいだからおとうとのおてほんになるようにたべるのはすこしきんちょうするときもあるけど、みんなでわらいながらはなしながらたべるごはんはやっぱりおいしいです。